

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The Effects of COVID-19 Pandemic Lockdowns on Alcohol Consumption and Tobacco Smoking Behaviour in South Africa: A National Survey 新型コロナウイルス感染症のパンデミックによるロックダウンが南アフリカにおける飲酒と喫煙行動に及ぼす影響の全国調査		
執筆者		
Witness Mapanga, Ashleigh Craig, Asanda Mtintsilana, et al.		
掲載誌		
Eur Addict Res. 2023;29(2):127-140. doi: 10.1159/000528484.		
キーワード	PMID	
アルコール、COVID 19、社会人口学的特徴、南アフリカ、タバコ	36934716	
要旨		
<p>目的:南アフリカ(SA)における新型コロナウイルス感染症パンデミックによるロックダウンの第1段階では、アルコール飲料とタバコの両方が非必需品とみなされ、販売当初禁止され、その後の販売も特定の日時に制限された。SAにおけるパンデミックによるロックダウン中の一般住民の飲酒と喫煙行動の変化を調査した。</p> <p>方法:横断的な調査は、SAが低レベルのロックダウン中の2021年10月、18歳以上の全国を代表する回答者3,402人を対象に実施した。飲酒と喫煙はロックダウン開始から終了まで(2020年3月末から2021年10月)、WHO-AUDITと米国疾病予防管理センターの世界成人タバコ調査のアンケートを使用して評価した。</p> <p>結果:ロックダウン中の飲酒者(33.2%)のうち、31.4%が有害または有害となる可能性のある飲酒問題を有し、18.9%が重度アルコール使用障害を抱えていた。飲酒量を報告した人の22%はロックダウンにより飲酒習慣が変化し、38.1%は飲酒量が減少したか完全にやめたと報告した。喫煙経験者の約20%のうち、ほとんどが調査時に喫煙していたと報告し(82.6%)、多くは軽度の喫煙者であった(87.8%、10本以下/日)。喫煙者の約1/3が、ロックダウンによりタバコ製品や電子タバコの使用が変わったと報告し、60.0%が喫煙を減らすかやめたと報告した。販売は制限されていたがタバコ製品は入手可能性であったことを示している。重度の喫煙は、高齢者、富裕層、ロックダウン中に喫煙を開始または増加した人で多く、居住地域とも関連した。</p> <p>結論:本研究結果より、パンデミック中のアルコールとタバコの販売規制はある程度の効果はあったものの、特に個人が高いストレスレベルを経験する可能性が高い時期には不十分であったことを示唆している。飲酒量と喫煙量の変化は、ヨーロッパ諸国で報告されたものとは異なっていたが、課された制限の違いかもしれない。</p>		